

教義指第640号（9月27日付け）を再掲したものです。

## 「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業」の分析結果 に基づく追加帳票について

### 1 はじめに

県では、平成27年度から児童生徒一人一人の学力の経年変化を把握できる「埼玉県学力・学習状況調査」を実施してまいりました。

さらに、平成28年度から、「埼玉県学力・学習状況調査」のデータをより詳細に分析するため、「埼玉県学力・学習状況調査のデータ分析事業」を実施しています。本事業の分析については、学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所に委託を行い、統計学の専門性を生かした、学力の経年変化と子供達の質問紙調査結果の相関分析や教科教育の視点からの学校現場の実地調査を行いました。

その分析結果から、「主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的学び）」が、学習方略・非認知能力の向上を通じて学力を向上させている可能性が示唆されました。【別添1参照】

そこで、県としては、今後の児童生徒の学力向上の方策の一つとして、「主体的・対話的で深い学び」のより一層の実施に加え、児童生徒の学習方略や非認知能力の向上に着目した取組を推進していきたいと考えております。

この度、そのような趣旨で、各学校や市町村教育委員会等で活用していただけるよう、児童生徒の「学力の伸び」と「主体的・対話的で深い学び」の実施状況、「学習方略」や「非認知能力」の変化に特化した埼玉県学力・学習状況調査結果の追加帳票を作成いたしました。本帳票は「埼玉県学力・学習状況調査のデータ分析事業」から得られた新たな知見に基づく結果帳票となります。

各学校や市町村教育委員会等におかれましては、本帳票の結果を基に「主体的・対話的で深い学び」の実施等についての状況を把握し、今後の指導改善等に活かしていただければと考えております。

#### 【本帳票で分かること（例）】

- (ア) 今年度担当している児童生徒の「学習方略」「非認知能力」の状況把握
- (イ) 昨年度の学級における「主体的・対話的で深い学び」の実施の状況把握
- (ウ) 昨年度の児童生徒の「学習方略」「非認知能力」の把握
- (エ) 昨年度、「学習方略」「非認知能力」をよく伸ばした学級の把握
- (オ) 昨年度、学年で共通して行った取組の効果の把握

## 2 追加帳票の見方について

(1) 帳票イメージ (掲載の都合上、左右に分割して掲載しています。)

### 【帳票左側】

40 学校用		平成29年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校6年生)														学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別																							
年度		市町村教育委員会コード		市町村教育委員会名		埼玉県学校コード		学校名		H28在籍情報				H29在籍情報				学校平均		市町村平均		県平均		国語		算数・数学													
										個人番号		学年		組		出席番号		性別		個人番号		学年		組		出席番号		性別		8-C		7-B		7-A		6-A			
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	16	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	16	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	16	1	7-A	2	7-C	6-A	1	6-B	7-B	1	7-C	6-A	1	6-B	7-A	2	7-A	2	7-A	2	7-A
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	19	2	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	19	2	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	19	2	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	8-B	1	8-C	6-A	-3	7-A	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	31	2	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	32	2	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	32	2	8-C	2	7-B	6-C	2	5-B	8-B	2	7-A	8-A	7	6-B	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	14	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	15	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	15	1	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	9-A	3	8-A	
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	18	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	17	3	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	17	3	6-C	3	4-C	4-A	4	3-B	6-C	3	4-C	4-A	4	3-B	6-C	3	4-C	4-A	4	3-B	
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	2	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	2	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	2	1	5-C	3	4-C	5-A	2	5-C	6-A	5	7-C	8-C	6	6-C	6-A	5	7-C	8-C	6	6-C	
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	1	33	2	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	34	2	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	34	2	9-A	9	4-A	6-C	6	5-B	9-A	9	4-A	6-C	6	5-B	9-A	9	4-A	6-C	6	5-B	
H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇立〇〇学校	〇〇〇〇〇〇〇	6	2	14	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	14	1	〇〇〇〇〇〇〇	5	1	14	1	9-C	3	8-C	9-A	3	8-A	9-C	3	8-C	9-A	3	8-A	9-C	3	8-C	9-A	3	8-A	

- ・ 平成29年度と平成28年度の児童生徒の在籍情報及び学力レベル等が記載されています。
- ・ 調査結果を平成28年度の学級ベースに並べ替えができるように、平成28年度の在籍情報も記載されています。
- ・ 学力レベルは、7月に各学校等へ送付している個人結果票や「帳票01」に記載されている学力レベルと同じものです。

### 【帳票右側】

H28→H29(変化量)										H29の結果										H28の結果									
アクティブ・ラーニングの実施		学習方略				非認知能力				アクティブ・ラーニングの実施		学習方略				非認知能力				アクティブ・ラーニングの実施		学習方略				非認知能力			
数値的方策	プロセス	作業方略	深い学び	協働的学び	自己効力感	自己効力感	動機性	自己効力感	動機性	数値的方策	プロセス	作業方略	深い学び	協働的学び	自己効力感	自己効力感	動機性	自己効力感	動機性	数値的方策	プロセス	作業方略	深い学び	協働的学び	自己効力感	自己効力感	動機性	自己効力感	動機性
0.2	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	0.1	-	0.2	-	2.1	2.5	2.4	2.4	3.1	2.1	2.0	-	2.8	-	1.9	2.6	2.4	2.6	3.3	2.2	2.0	-	2.6	-
0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.2	-	2.0	2.6	2.5	2.6	3.1	2.2	2.1	-	2.8	-	2.0	2.6	2.5	2.6	3.1	2.2	2.0	-	2.5	-
0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.2	-	2.0	2.5	2.4	2.5	3.0	2.1	2.0	-	2.7	-	2.0	2.5	2.4	2.6	3.0	2.1	2.0	-	2.5	-
0.3	-	-	-	-	0.3	-	-	0.5	-	1.6	1.8	2.0	1.5	2.8	1.3	2.0	-	2.6	-	1.4	-	-	-	-	1.0	-	-	2.1	-
-0.1	0.3	-0.3	-1.0	0.0	-0.3	0.0	-	0.1	-	2.6	4.5	2.5	4.0	5.0	3.5	2.5	-	3.0	-	2.8	4.3	2.8	5.0	5.0	3.8	2.5	-	2.9	-
1.3	-0.5	0.5	0.5	-0.3	-0.8	1.0	-	1.4	-	3.4	3.5	4.3	4.8	4.0	2.5	3.3	-	3.1	-	2.1	4.0	3.8	4.3	4.3	3.3	2.3	-	1.8	-
0.1	-0.5	-0.3	0.3	-0.5	0.0	0.0	-	0.1	-	1.8	1.3	1.5	1.5	3.5	1.0	1.0	-	1.5	-	1.6	1.8	1.8	1.3	4.0	1.0	1.0	-	1.4	-
-0.8	0.0	0.0	-0.8	-1.3	0.0	0.0	-	0.6	-	1.9	2.3	1.8	1.3	1.8	2.0	1.5	-	2.9	-	2.6	2.3	1.8	2.0	3.0	2.0	1.5	-	2.3	-
0.5	1.0	0.5	0.8	0.3	0.8	0.0	-	1.1	-	1.9	2.8	2.5	2.0	2.8	2.0	1.5	-	2.9	-	1.4	1.8	2.0	1.3	2.5	1.3	1.5	-	1.8	-
1.0	0.7	0.3	1.0	0.3	0.0	-0.3	-	0.4	-	2.4	2.7	2.6	3.0	2.3	2.5	2.3	-	2.6	-	1.4	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	-	2.3	-
0.8	1.3	2.3	0.0	0.5	0.3	1.0	-	-0.1	-	2.5	3.3	3.5	1.8	3.0	2.3	2.3	-	2.5	-	1.8	2.0	1.3	1.8	2.5	2.0	1.3	-	2.6	-
-0.1	-0.8	-1.5	0.8	0.0	-0.3	0.8	-	0.8	-	1.6	2.3	1.8	2.8	3.5	2.0	1.8	-	2.1	-	1.8	3.0	3.3	2.0	3.5	2.3	1.0	-	1.5	-
-0.3	-0.3	-0.5	0.0	-1.5	-0.8	0.0	-	0.3	-	2.0	1.0	1.8	1.5	1.5	1.8	1.5	-	2.6	-	2.3	1.3	2.3	1.5	3.0	2.5	1.5	-	2.4	-

H28→H29 の変化量

H29 の結果

H28 の結果

- ・ 平成29年度と平成28年度における「アクティブ・ラーニングの実施」「学習方略」「非認知能力」の値と、それらの1年間の変化量が記載されています。

※ 本帳票における「アクティブ・ラーニングの実施」は「主体的・対話的で深い学び」の当該学級における実施状況について、児童生徒がどう受け止めていたかという値です。

- ・ 本帳票の「アクティブ・ラーニングの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっており、数値が低いほど、よい値となっています。

(例) 児童生徒A プランニング方略=2.5 ⇒ Aの児童(生徒)の方がよい結果となる。  
児童生徒B プランニング方略=2.8

- ・ H28→H29の変化量については、値がー(マイナス)の方がよい値となっています。

※ 各種項目についての詳細な説明は、「【別添2】本帳票に使用されている項目についての説明」を参照してください。

### 3 追加帳票の活用について

(1) 平成29年度(今年度)の学級ベースの状況把握(送付された帳票をそのまま見る。)

#### (ア) 今年度担当している子供たちの学習方略・非認知能力の状況を把握

⇒ 目の前の児童生徒一人一人の状況を把握し、今後の児童生徒への指導に生かす。

#### 【手順】

① 帳票のエクセル・ファイルを開き、左下にあるシートタブから、結果を見たい学級のタブを選択します。

(シートタブは、「全体」「1組」「2組」・・・の順に並んでいます。)

2	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
3	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
4	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会
5	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会

全体 1組 2組 3組 4組

※ 下の図は、(例)として、小学校6年生の帳票で「1組」を選択しています。

※ 必要に応じて、出席番号順に並べ替えたり、部分的に非表示にしたりしてください。

(ここでは、平成29年度の1組の出席番号で並べ替え、平成28年度の結果を非表示にしています。)

H29在籍情報					H29結果									
					アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
						主体的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
個人番号	学年	組	出席番号	性別	2.1	2.5	2.4	2.4	3.1	2.1	2.0	-	2.8	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	1	1	2.0	2.0	1.8	3.0	3.5	1.8	1.8	-	3.4	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	2	1	2.0	2.3	2.5	2.5	2.3	2.3	2.0	-	2.6	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	3	1	1.3	3.3	2.0	3.0	2.5	1.0	2.5	-	2.3	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	4	1	1.6	1.8	2.0	1.5	2.8	1.3	2.0	-	2.6	イ
〇〇〇〇〇〇	6	1	5	1	1.9	1.3	2.0	2.8	3.0	1.3	1.8	-	1.8	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	6	1	1.6	2.3	1.8	2.8	3.5	2.0	1.8	-	2.1	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	7	1	2.1	2.3	1.0	1.0	2.5	1.3	1.0	-	1.8	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	8	1	2.0	3.0	2.0	2.8	3.0	2.5	2.0	-	2.9	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	9	1	2.3	2.5	3.8	2.5	2.8	2.0	1.5	-	2.9	-
〇〇〇〇〇〇	6	1	10	1	1.5	1.0	2.0	3.0	2.8	1.3	1.8	-	2.1	-

② 選択した学級の「学習方略」「非認知能力」について、児童生徒一人一人の状況を把握します。

(例1) 出席番号9番の児童は、㊦の数値から、プランニング方略に課題がある可能性がある。

(例2) 出席番号1番の児童は、㊥の数値から、自己効力感が低い可能性がある。

⇒ 上記の例などを踏まえ、今後の一人一人の児童生徒への指導に生かす。

#### 【数値を見る際の留意点】【重要】

※ 数値の範囲は、1.0~5.0となっており、数値が低いほど、よい値となっています。

※ 「アクティブ・ラーニングの実施」については、平成28年度(昨年度)の学級の取組の成果となりますので、読み取る際に注意が必要です。

※ 「人的リソース方略」(友人を利用して学習を進める活動)は、学力と負の相関(人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向)があることが報告されています。

(2) 平成28年度(昨年度)の学級ベースの状況把握(送付された帳票を加工して見る。)

- 県学力・学習状況調査の結果は、昨年度の学級等における取組の成果であることから、昨年度の取組が児童生徒に効果的であったかを把握し、教師の指導改善に活かす。

【手順】(平成28年度の学級ベースに並べ替えを行います。)

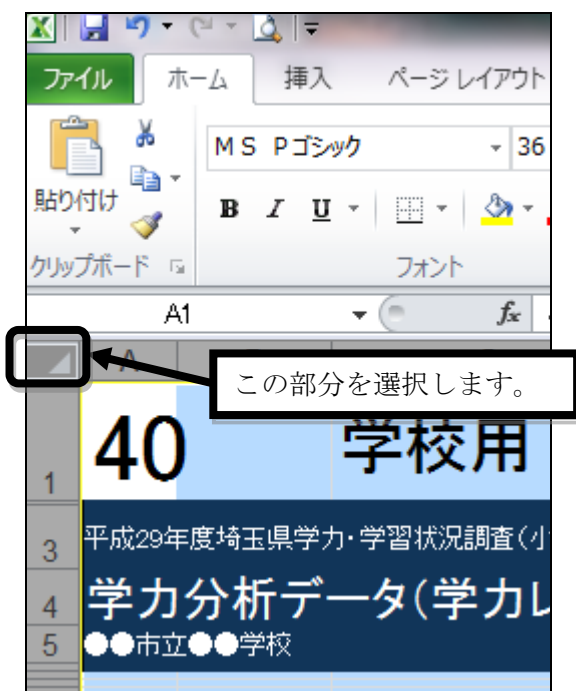
① 帳票のエクセル・ファイルを開き、左下にあるシートタブから、「全体」のタブを選択します。

2	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	
3	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	
4	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	
5	H29	〇〇	〇〇市(町・村)教育委員会	

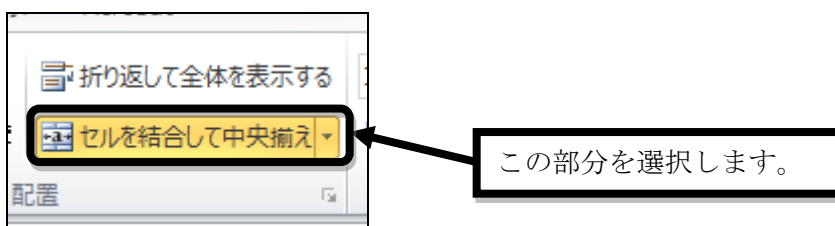
全体 1組 2組 3組 4組

② エクセル・シートの左上の部分を選択し、セルを「全選択」の状態にします。

(下の図は、エクセル2010でファイルを開いた場合のイメージです。)



③ エクセル・シートの上部にある「セルを結合して中央揃え」を選択し、セルの結合を解除します。



④ 平成28年度の在籍学級(組)ベースで並べ替えを行います。

※ エクセルの「ソート」機能や「フィルタ」機能を利用して、並べ替えてください。

(下の図は、「フィルタ」機能を利用した場合のイメージです。)

「H28」であることを確認してください。  
 ※ ここでは例として、H29の小学校6年生の帳票を、H28の5年生の学級に並べ替えています。

「組」の部分を、昇順で並べ替えます。

⇒ 平成28年度の在籍学級(組)ベースで並べ替えが完了します。

H28在籍情報					国語		算数・数学		H28→H29(変化量)									
個人番号	学年	組	出席番号	性別	H29レベル	H28レベル	H29レベル	H28レベル	アクティブ・ラーニング	学習方略			非認知能力					
					学校平均	市町村平均	県平均		柔軟的方略	プロセス	作業方略	人際関係	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	動機	
○○○○○○○	5	1	16	1	8-B	7-B	7-B	6-A	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	0.1	-	0.2		
○○○○○○○	5	1	19	2	9-A	8-A	9-A	8-A	0.1	-0.5	-0.3	0.3	-0.5	0.0	-	0.2		
○○○○○○○	5	1	32	2	8-C	7-B	6-C	5-B	0.5	1.0	0.5	0.8	0.3	0.8	-	1.1		
○○○○○○○	5	1	10	1	8-B	7-A	8-A	6-B	-0.1	-0.5	-1.0	-1.3	-0.8	-1.3	-0.5	-	-0.5	
○○○○○○○	5	1	15	1	9-A	8-A	9-A	8-A	-0.4	-1.5	-1.3	-1.5	0.0	-0.8	1.0	-	-0.6	
○○○○○○○	5	1	17	3	6-C	4-C	4-A	3-B	-0.8	-1.5	-1.0	-0.5	-1.3	-0.8	0.0	-	-0.8	
○○○○○○○	5	1	2	1	5-C	4-C	5-A	5-C	0.0	0.0	0.5	0.5	0.3	0.0	-1.0	-	0.4	
○○○○○○○	5	1	20	2	8-A	7-C	8-C	6-C	0.1	-1.0	0.0	-0.3	-0.3	-1.0	0.0	-	0.0	
○○○○○○○	5	1	34	2	7-A	4-A	6-C	5-B	0.1	0.0	-0.5	0.0	-1.0	0.0	-	0.3		
○○○○○○○	5	1	14	1	9-C	8-C	9-A	8-A	0.0	0.8	1.3	-0.3	1.8	0.3	0.5	-	0.0	
○○○○○○○	5	1	11	1	9-A	8-A	9-A	8-A	0.0	-0.3	0.8	0.3	0.0	-0.3	0.8	-	1.0	
○○○○○○○	5	1	24	2	9-C	8-A	9-A	8-A	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.3	1.0	-	0.1	
○○○○○○○	5	1	26	2	4-C	-5	5-A	4-C	-6	6-C	-0.1	0.5	-1.8	2.0	-0.5	0.8	-	1.0
○○○○○○○	5	1	29	2	8-C	7-A	6-A	5-B	-0.3	-0.5	-0.8	-1.0	-1.0	-1.5	-0.3	-	-0.3	
○○○○○○○	5	1	4	1	7-B	6-A	7-C	5-A	0.8	3.8	2.5	1.3	0.0	0.8	1.8	-	2.8	
○○○○○○○	5	1	21	2	8-C	6-A	6-C	3-B	-0.3	-0.3	-0.8	-0.7	-1.8	-0.8	-	-0.3		

※ 画面上は表示されていませんが、1組、2組の順に、縦に並んでいます。

⑤ エクセルの average 関数などを利用して、数値を整理します。(下の表は例です。)

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略 柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	非認知能力		
								自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	-0.2	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.3	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	-0.1	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	-0.2	-	0.1	-
学年全体	0.1	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2	-	0.2	-

- ・ 昨年度1年間の取組の成果を見ることから、「H28→H29 (変化量)」の値を使用しています。
- ・ よい結果が出ている部分のセルに色を付けるなどして、結果を把握しやすくしています。

※ 「自制心」は小学校5年生と中学校2年生、「勤勉性」は中学1年生にのみ質問している項目のため、数値が記載されていません。

【参考】 average を利用した平均値の出し方

- ① 必要に応じて、入力する枠を用意します。(平均値算出後でも問題ありません。)
- ② 平均値を表示したいセルを選択します。(同シート内でも、別シートでも問題ありません。)
- ③ エクセル上部の数式タブにある、「関数の挿入」を選択する。
- ④ 表示されたウインドウ内の「AVERAGE」を選択し、ウインドウ下部にある「OK」を押す。

③ 数式タブにある「関数の挿入」を選択

② 平均値を入力したいセルを選択

④ 「AVERAGE」を選択し、「OK」を押す

① 必要に応じて、入力する枠を準備

⑤ 次のようなウィンドウが出てきます。エクセルのポインタで、平均値を出したい対象の値を選択し、「OK」を押してください。

ここでは、平成28年度5年1組の「アクティブ・ラーニングの実施」の「H28→H29（変化量）」の平均を算出する場合を示しています。

H28在籍情報					H28→H29(変化量)								H29結果				
個人番号	学年	組	出席番号	性別	柔軟的方略	学習方略	作業方略	人間的スキル	認知的方法	発問調査方略	自制心	自己効力感	勤勉性	柔軟的方略	学習方略	作業方略	
00000000	5	1	16	1	0.2	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	0.1	-	0.2	-	2.1	2.5	2.4
00000000	5	1	19	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	32	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	10	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	15	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	17	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	2	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	20	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	34	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	14	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	11	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	24	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	26	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	29	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	1	4	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	2	1	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	2	15	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
00000000	5	2	12	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

1組の平均なので、点線囲み部分を参照しながら、実践部分を選択します。

⑥ 平均値が表示されます。

平成28年度〇〇学校「	
	アクティブ・ラーニングの実施
1組	0.1
2組	

⑦ 2組→4組の順に、②～⑥の手順を繰り返してください。全体平均を出す場合は、1組から4組の全ての結果を選択してください。

平成28年度〇〇学校「ALの実施」			
	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略	
	柔軟的方略	プランニング	
1組	0.1		
2組	0.1		
3組	0.3		
4組	0.1		
学年全体	0.1		

⑧ 1項目分完成したら、上の図のように範囲選択し、右下の部分を押しながら右へ移動（ドラッグ）すると、計算式がコピーされ、他の項目も表示できます。



⑨ 次のように表示されます。

※ 最初に枠を作成している場合は、作成した枠の項目と元データの入っている項目が一致していることを確認してください。

平成28年度〇〇学校「主体的・対話的で深い学び」の実施状況に関する分析資料

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略					非認知能力			
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
①組	0.1	0.0	0.0	0.1	-0.2	-0.3	0.3	#DIV/0!	0.4	#DIV/0!
2組	0.1	-0.2	-0.1	-0.6	-0.1	-0.3	-0.2	#DIV/0!	-0.1	#DIV/0!
3組	0.3	0.1	0.2	0.2	-0.1	0.2	0.3	#DIV/0!	0.5	#DIV/0!
4組	0.1	-0.2	0.0	-0.1	-0.1	0.0	0.2	#DIV/0!	-0.1	#DIV/0!
学年全体	0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	#DIV/0!	0.2	#DIV/0!

⑩ 注目したいセルに色を付けるなど、必要に応じて体裁を整えてください。

※ 「自制心」「勤勉性」については、当該学年で質問していないため、平均値は表示されません。

⑥ 実態を把握し、指導改善等につなげる。

(イ) 昨年度の学級における「主体的・対話的で深い学び」の実施の状況を把握【重要】

⇒ データ活用事業の結果において、「主体的・対話的で深い学び」が学習方略や非認知能力の向上を経由して、学力を伸ばしている可能性が示唆されたことから、昨年度の学級において、「主体的・対話的で深い学び」がどの程度実施されていたかを確認する。

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略					非認知能力			
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	0.1	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	0.2	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-

◎ 昨年度の学級担任や教科担当が確認し、自分が担当していた学級において、「主体的・対話的で深い学び」がどの程度実施されていると児童生徒が受け止めていたかを考察する。

※ 本帳票における「主体的・対話的で深い学び」の実施についての集計値は、児童生徒質問紙の集計結果であることから、教師が意識的に行ったかどうかではなく、児童生徒がどう受け止めていたかという値です。

【考察（例）】

- ・ 自分の行っている授業は、「主体的・対話的で深い学び」になっていたようである。
- ・ 自分は「主体的・対話的で深い学び」を行っているつもりであったが、児童生徒はそう受け止めていなかったようである。
- ・ 全クラスを見ると、特に、平成28年度に2組に在籍していた児童は、「主体的・対話的で深い学び」が実施されていたと受け止めていたようである。



**(ウ) 児童生徒の「学習方略」、「非認知能力」の変化量の把握**

⇒ 昨年度の「主体的・対話的で深い学び」の取組が、児童生徒の「学習方略」や「非認知能力」の向上に効果があったかを確認する。

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略					非認知能力			
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	0.2	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-

**【考察（例）】**

- ・ 平成28年度の2組は、「主体的・対話的で深い学び」が実施されていた効果として、プランニング方略をはじめ多くの値が向上しているのではないだろうか。

**(エ) 昨年度、学習方略や非認知能力をよく伸ばした学級を把握**

⇒ 学習方略や非認知能力をよく伸ばしている学級の担任や教科担当が行っている取組や心がけていることなどを学校全体で共有し、指導改善に活かす。

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略					非認知能力			
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	0.1	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	0.2	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-

**【考察（例）】**

- ・ 1組と2組の担当者は、プランニング方略を向上させているようだ。1組と2組の担当者に、児童生徒質問紙の項目を参考に、聞き取りをしてはどうか。

**【児童生徒の「プランニング方略」を測定する質問項目】**

勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる

勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる

勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう

勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす

- ・ 聞き取りの結果、1組の担任は児童生徒に家庭学習を計画的に行わせるために、独自の「学習計画表」を作成し、家庭と連携しながら、丁寧に見取を行っていることが分かった。また、2組の担当は、学習に取り組む際には、児童生徒に見通しを持たせる意識付けをするよう心がけていることが分かった。
- ・ よい取組や心がけを共有し、他の学級でも実施することで、学年全体の学力向上につなげよう。
- ・ 他の項目についても、学習方略や非認知能力をよく伸ばしている担当に、聞き取りをしてはどうか。

(オ) 昨年度、学年で共通して行った取組の効果を把握

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤勉性
1組	0.0	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.3	-0.2	-	0.2	-
2組	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-0.3	-	0.1	-
3組	0.3	0.0	0.2	0.0	-0.2	0.1	-0.1	-	0.5	-
4組	0.2	0.1	0.2	0.1	-0.2	0.0	0.2	-	0.1	-
学年全体	0.1	0.0	0.0	-0.1	-0.2	-0.1	-0.2	-	0.2	-

【考察（例）】

- ・ 「努力調整方略」が、全学級で向上している。学年全体の取組の成果の可能性はある。児童生徒質問紙の項目を参考に、昨年度の取組の振り返ってみることとする。

【児童生徒の「努力調整方略」を測定する質問項目】

-----  
学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう  
いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる  
授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単のところだけ勉強する  
問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する  
-----

⇒ もしかしたら、最後まであきらめず宿題を全員にやりきらせる指導を、学年全体で共通して取り組んだことの成果かもしれない。来年度も継続して取り組んでみてはどうか。

4 その他、取り組んでいただきたいこと

本帳票の主な目的は、結果を基に「主体的・対話的で深い学び」の実施等についての状況を把握し、今後の指導改善等に活用していただくことにあります。

上記、(ア)～(オ)を参考に、学級や学年毎に状況把握していただくことはもちろんですが、学校全体で共有していただくことが大切です。

そこで、各学校におかれましては、

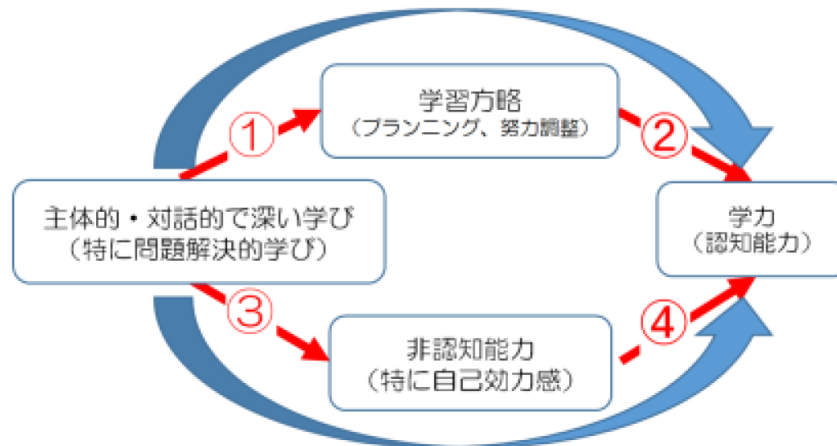
- 把握した状況について校内研修を実施する
- 学力や「学習方略」「非認知能力」を伸ばしている教員の授業参観を実施する

などの機会を設けることで、学校全体でよい取組を共有し、組織的に学力向上に取り組んでくださるようお願いいたします。

## 【別添 1】

「平成28年度埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業」調査結果概要について【抜粋】

主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的学び）が、学習方略・非認知の向上を通じて学力を向上させている可能性



- ① 問題解決的な学びと学習方略の3カテゴリーは正の相関関係
  - ・プランニング方略、作業方略、努力調整方略
- ② 学習方略の3カテゴリーと学力は正の相関関係
  - ・プランニング方略、認知的方略、努力調整方略
- ③ 主体的・対話的で深い学びと非認知能力は強い正の相関関係
- ④ 非認知能力（特に自己効力感）と学力は正の相関関係

【参考】埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業 ホームページ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoubu/20150605.html>

【別添2】 本帳票に使用されている項目についての説明

項 目	説 明
<b>アクティブ・ラーニング の実施</b>	学級におけるアクティブ・ラーニングの実施状況を数値化した値 ※ 児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値
<p>【児童生徒質問項目（例）】 ※学年により、質問項目が異なります。</p> <p>あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと</li> <li>・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと</li> <li>・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと</li> <li>・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決すること</li> <li>・ 授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること</li> <li>・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言われること</li> <li>・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと</li> </ul>	

項目	説明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑥に分類される。
<p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動  (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習する など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動  (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すとといった、「作業」を中心に学習を進める活動  (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 人的リソース方略 … 友人を利用して学習を進める活動  (例) 友達に勉強のやり方や分からないところを聞く など</p> <p>※ 分析結果では「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。</p> <p>⑤ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動  (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑥ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動  (例) 分からないところも諦めずに継続して学習するなど</p>	
【児童生徒質問紙の項目】	<p>-----</p> <p>柔軟的方略  勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する  勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる  勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる  勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える</p> <p>-----</p> <p>プランニング方略  勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる  勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる  勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう  勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす</p> <p>-----</p> <p>作業方略  勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく  勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている  勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる  勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる</p> <p>-----</p> <p>人的リソース方略  勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく  勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく  勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する  勉強するときは、最後に友達と答えあわせをするようにする</p> <p>-----</p> <p>認知的方略  勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える  勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする  勉強していてわからないことがあったら、先生にきく  新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する</p> <p>-----</p> <p>努力調整方略  学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう  いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる  授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単のところだけ勉強する  問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する</p> <p>-----</p>

<b>非認知能力</b>	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の4種類について質問を行っている。</p>
<p>① 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 <b>平成29年度の小学校5年生、中学校2年生に質問（平成28年度は、小学校4年生、中学校1年生に質問）</b></p> <p>自制心</p>	<p>授業で必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹を除きます）に口答えをした</p>
<p>② 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 <b>平成29年度の小学校6年生、中学校3年生に質問（平成28年度は、小学校5年生、中学校2年生に質問）</b></p> <p>自己効力感</p>	<p>授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたとと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 <b>平成29年度の中学校1年生に質問（平成28年度は、小学校6年生と中学校3年生に質問）</b></p> <p>勤勉性</p>	<p>うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束したら、それを守ります 自分の部屋や机の周りにはちらかっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 <b>平成29年度の小学校4年生に質問（平成29年度新規）</b></p> <p>やりぬく力</p>	<p>大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいつぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができせん 始めたことは何でもさいごまで終わらせす 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>



